

令和2年度 一年間の振り返り（施設の自己評価結果報告書）

幼保連携型認定こども園

八田荘こども園

◆園全体◆

- ・堺市の『新型コロナウイルス感染症対策に関する考え方』等のマニュアルを十分理解した上で、全職員にも情報を共有し、コロナ対策に全力で取り組んだ一年だった。特に教育・保育中における3密の回避、マスクの着用（3歳児以上）、食事の仕方（距離をあける、喋らない）、手洗いの励行、消毒、換気には十分に気を付けて教育・保育に努めた。また、園関係者がコロナ陽性者や濃厚接触者等になった場合の園対応も、出来る限り速やかに行うようにした。
- ・コロナウイルスの影響で、行事の見直しが常に必要だった。来年度は、今年度を参考にして、一年を見通して、出来る限り早く行事の決定をして、クラス運営がスムーズに運ぶようにしたい。
- ・今年度より、月1回専任講師の職員研修を取り入れて、玩具のこと、遊びと発達の関係性、環境構成、園児への対応方法等を学んだ。各クラスで遊びに集中する子どもたちの姿が多くなり、職員の園児への関わり方や声の掛け方の変化が見られた。

◆各クラス◆

年間目標（0歳児）

- ・ひとりひとりの家庭での過ごし方に合わせて、ゆっくりと関わり、徐々に園生活に慣れていけるようにする。
 - ・身の回りの物や玩具、感触遊びなどを通して見たり、触ったりしながら、いろいろな物に興味を持ち楽しめるようにする。
- 個々の生活リズムに合わせて、午前睡を取り入れたり、食事時間を決めたりすることで、生活リズムが整って機嫌よく過ごせるようになった。
- 夏ならではの感触遊びを取り入れていく予定であったが、コロナウイルスのため取り入れることが難しかった。その分、室内の環境をしっかりと整え、感覚が育つ手作りの玩具を出しておくことにより、興味を示し玩具に触れ遊ぶ姿が見られた。

年間目標（1歳児）

- ・十分に認めたり、ほめたりする事で、身の回りの事を自分でやりたいと思う意欲を引き出せるようにする。
 - ・保育者との信頼関係をもとに友だちへの関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを味わい安心して過ごす。
- 子どもたちに無理をさせることなく、一つ出来たら次の段階へというようにすすめて、出来た時は保育者皆で褒めたり、子どもたちへ伝え広めることで意欲を引き出したり、友だちの姿を意識できるようにした。
- また、遊びから食事や着脱につなげていけるような手作り玩具を用意することで、無理なく楽しみながら身に付けることができた。
- 担当制をしっかりとすることで、信頼関係もすぐに築くことが出来た。遊びのコーナーごとに、遊んでいる写真を貼ることで、同じように遊んでみたり、お友だちの名前を言ったりと遊びにも友だちにも関心を持つようになった。

年間目標（2歳児）

- ・色々なことに興味を持てるように様々な経験を重ね、一人ひとりの得意なことを伸ばしていく。
- ・自立に向けて基本的な生活習慣が身につき、出来たことを喜び、自信を持つ。

→様々な経験ができるように造形活動をたくさん取り入れた。子どもの得意なことが他児にも広まるように知らせてみたり、子どもの夢中になっている遊びに寄り添ったり、遊びを広げていく工夫（環境構成）を心掛けた。保護者の方も、今の子どもの姿をドキュメンテーションで知らせるなどし、子どもの成長に寄り添うように心掛けた。

→基本的な生活習慣については、子どもに習慣が身に付き始めたら見守ることに重点を置き、最後まで見守るように心掛けた。排泄では一人ひとりのタイミングが職員間で把握できるように一覧表にして確認し合ったことにより無理なく布パンツへと移行することが出来た。

年間目標（3歳児）

- ・生活習慣の自立に向けて、身の回りのことが自分でできたと感じられるように援助する。
- ・様々な活動に興味・関心を持ち、新しいことにも意欲的に挑戦できるようになる。

→自分で身の回りの事や用意を進めていけるように、見守りつつも必要に応じて援助をし「できた」の気持ちを大切に関わった。用意の手順や玩具の場所などを写真で掲示し視覚的に配慮したことにより、保育者の手を借りずに自分でやってみようとする姿が見られた。

→発達や個々に合わせて、食事の箸への移行や排泄の始末などは徐々に自立できるように個別の目標で進めた。また、出来た際は積極的に共感を求めたり、友だちと一緒に喜び合ったり、刺激い合いながら認める姿もみられるようになった。

→様々な経験が出来るように、毎日の設定保育を考えたり、子どもの興味に寄り添えるようにコーナー遊びの充実など環境を整えたりした。そうすることで、子どもたちも1つの遊びに集中したり、こんな遊びをしたいと意見も出てきたり生き生きとした姿が見られるようになった。

年間目標（4歳児）

- ・集団生活の中で一人ひとりの感情や考えを受けとめ、子どもが自分に自信を持てる目標を立てる。
- ・子どもが季節によって自然が変化するもの、知らないものに気づき興味を深める。

→体育目標カードや鍵盤ハーモニカのチャレンジカードで個々の目標を立てて、一人ひとりが意欲的に活動に取り組める様にした。そうしたことにより、子どもの意欲が沸き、毎日の練習に一生懸命取り組む姿が見られ、目標を達成できた満足感や充実感を感じることができた。

→季節の移り変わりに気づけるように、季節の食べ物や自然物の写真を保育室に貼り、自然現象について子どもたちと話し合う時間を設けた。しかし、子どもたちのイメージを膨らませることが難しく遊びに発展させたものの遊びが持続しなかったことが反省である。

年間目標（5歳児む）

- ・子どもたちが自信を持って行動できるように、一人ひとりの主体性を大切にする。
- ・仲間の一人としての自覚が芽生え、友だちと協力して生活や遊びを工夫して満足いくまで楽しむ。

→「がんばりカード」を通して、一人ひとりが目標を持って主体的に取り組めるようにした。また、チームで協力して取り組む活動やクラス全員が協力し合える活動を取り入れたことにより一人ひとりがクラスの一員であると自覚することができた。

→子ども一人ひとりのできる力に合わせて、同じことを取り組むにも、説明の仕方や方法を工夫した。一人ひとりに寄り添う時間を増やすことで、個々の成長を大切にした。